

報道関係者 各位

放送批評懇談会

**発表！2019年8月度ギャラクシー賞月間賞**

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで57年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、批評活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する制度「月間賞」を運営しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。6月初旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナー、シンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース (<https://houkon.jp/galaxy/database/>)」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

◆お問い合わせ先

放送批評懇談会／担当：福島・齋藤

〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel : 03-5379-5521 Fax : 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <https://houkon.jp/>

放送批評懇談会



2019年8月度ギャラクシー賞月間賞

ETV特集「忘れられた“ひろしま”～8万8千人が演じた“あの日”～」

8月10日放送 23:00～24:00 日本放送協会

月丘夢路もノーギャラで出演、市民が持ち寄った数十万点のリアルな小道具・衣類などの話題があっても忘れ去られたのはなぜか？ 監督補佐の孫・小林開さんたちによる再上映活動、伊地知徹生さんと米国のプロデューサーの協力など、サーロー節子さんの言う「宝もの」を継承し、反戦を訴える映画人たちの姿もすばらしい。

NHKスペシャル「全貌 二・二六事件～最高機密文書で迫る～」

8月15日放送 19:30～20:43 日本放送協会

歴史的事件の第一報から鎮圧までの4日間を同時進行の分刻みで克明に記録した「機密文書」。その発見こそが大スクープだが、ドキュメントとドラマで事件の詳細を描いた取材力、構成力も高く評価したい。日本はこの事件からわずか9年後に無残な敗戦を迎えることになる。この番組が8月15日に放送されたことも意義深い。

NHKスペシャル「昭和天皇は何を語ったのか～初公開・秘録『拝謁記』～」

8月17日放送 21:00～22:00 日本放送協会

昭和天皇が終戦後に語った言葉が初代宮内庁長官・田島道治が書き残した「拝謁記」から明かされる。独立記念式典の「おことば」をめぐる、政府の思惑との間で揺れ動く様が生々しい。天皇の「私をかつぐけど、私の真意を少しも尊重しない」という言葉がすべてを物語っていた。

ドラマイズム「スカム」

7月2日～8月27日放送 25:28～25:58 毎日放送 avex pictures 「スカム」製作委員会
オレオレ詐欺に身を投じた若者の転落を、疾走感あふれるタッチで描いたアウトロードドラマの快作。まじめな子が簡単に闇落ちする現代社会のリアルがあり、彼らも結局だまされているのだという二重構造に分厚い人間ドラマがある。若さゆえのイタさ、突破力、因果応報を杉野遥亮が端正に演じ、大暴れの逮捕シーンが胸に突き刺さる。